

このまちの100年

「武蔵小杉」

明治40年代頃より一帯には工場が進出。戦時下においては軍需で繁栄、戦後も工業地域として発展しました。近年は多くの工場が移転・撤退し、跡地では高層マンションや大型商業施設も続々と誕生しています。



大正後期～昭和戦前期

菓子製造などを行っていた実業家・大竹幾次郎が従業員のための福利施設として設けた丸子園。一般にも開放された



昭和10年頃

東京側から神奈川側を望んだ様子。川に丸子橋が架かる



昭和28年

工業都市駅と武蔵小杉駅の2駅を統合して、武蔵小杉駅が開設された



昭和30年代

釣り堀としてにぎわった東横池。新丸子採取場の砂利採掘の際にできた穴に、雨水や湧き出した多摩川の伏流水が溜まってできた



昭和30年代

日本電気 玉川向工場。広大な用地に開設され、都内の工場機能が次々と移転された



昭和46年頃

武蔵小杉駅北口。駅周辺は、昭和30年代から住宅や商業地に変わっていった

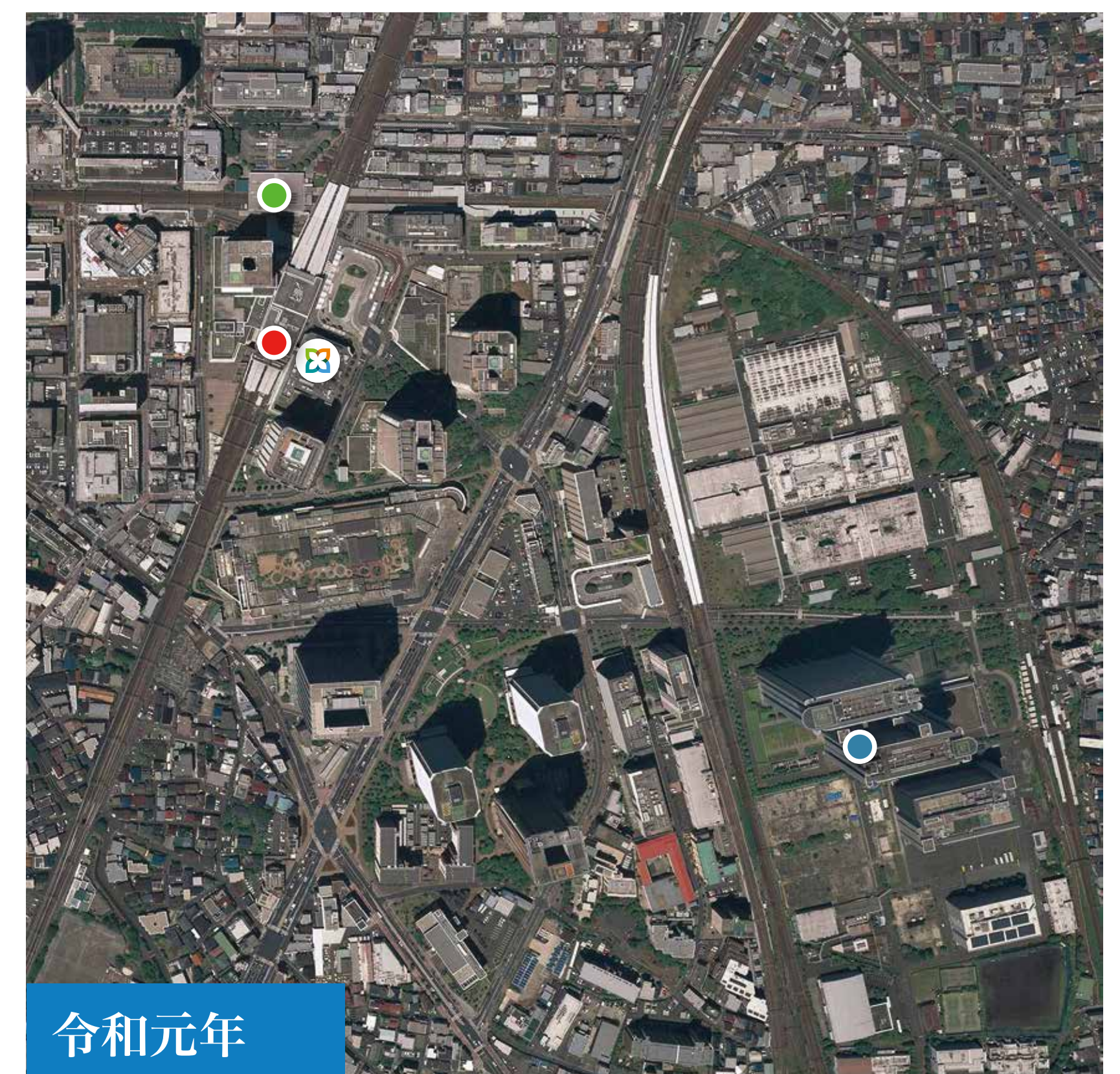
上空からみた武蔵小杉エリア



昭和16年



昭和50年



令和元年

● : 日本電気玉川向工場 / 日本電気玉川事業場 / NEC 玉川ルネッサンスシティ ● : グラウンド前停留場 (南武鉄道) / 武蔵小杉 (南武線) ● : 工業都市 (東横線) / 武蔵小杉 (東横線)

☒ : 現在地

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロマチ